

## テント一週一文（て）—— 川内原発行政訴訟傍聴記

（承前）

テント内では4名が資料や新聞を読んだり、タブレットを眺めたりしていたのですが、「入口」と書いた透明のビニールカバーを手で横に押しながら女の人が「今日は」と言いながら入って来ます。男の人のタブレットを自分のもののように扱いながらあちこちのページを見ていた女の人（以下「夕」）が顔を上げて「お久しぶり」と応えます。指圧の資料を見ていた女の人（以下「指」）が「お元気でした？」と声をかけて、「いま腎臓の病気を防ぐ指圧の箇所を読んでいたのよ。どう具合は？」と言いながら椅子を勧めます。今新しく入って来た人（以下「今」）は「急によくなる病気じゃないからですね」と無難に答えて、椅子に座ります。

夕は「入院されていたんですって？」と直接的な質問を口にします。

指：退院されて間もないのに、先日の福岡地裁での川内原発行政訴訟には傍聴に来ていたのよ。

今：日常生活はそれほど気にしなくて、普通とおりにしていてもいいのよ。

夕は「地裁に入るあの坂はきつくはなかった？」とまた直接的な質問です。

指は「私は行けなかったけど面白かったんですって？」と 病気的话题を避けます。

今：報告集会でも皆さん感激の様子でしたよ。

夕：何に感激なの？

今：私は裁判のことはよく知らないけれど、刑事事件の裁判のようだったって言うていた人もいたわ。

夕は「その人は刑事事件の被告になったことがあるのかしら？」と穏やかならざる質問を口にします。これには誰も答えられません。

今：それは知らないけれど、原告側と被告側が丁々発止、というほどじゃなかったけど、ともかく今までだんまり戦術で通して来た被告側が自分たちの望む裁判進行について説明し始めたのよ。

指：もう結審じゃなかったの？

今：…… と原告側は求めていたわね。

夕：じゃ仕切り直しだわ。

今：それじゃ裁判所は立つ瀬がないわ。

夕：じゃ結審だわ。

今：その中間を裁判所は求めているようね。

夕：（タブレットを見ながら）ちょっと待って。ここにはその日の傍聴記が載っているわ。

指：ちょっと見せて。ふ～ん。こんな感じだったんだわ。（「今」に向かった）こうだったんだ。

今：私にも見せて……。大体こんな風だったわ。報告集会ではこの前の広島高裁の判決が何度か話題になったね。皆さんとても関心があるようだったし、弁護士さん達もあの判決をどのように評価するか発言していてね……

夕：ということは2月28日の裁判は法廷も面白かったし、報告集会も参加者にとってはとても意義深かったわけ？

今：そう言ってもいいと思うわ。

指：でもこの傍聴記によると、原告、被告が仕切り直しの状態に入ったってあるわ。

今：私はさっき、仕切り直しほどじゃない、って言ったけど、仕切り直しと思う人もいるのね。ともかく、傍聴記にもあるけど、世論とマスコミへの訴え、ハガキ作戦、傍聴者拡大等などで国と九電を押し返していかなければならないステージに移ったのよ。

タ：私も次回5月30日(水)13時半と次々回9月5日(水)13時半の裁判には傍聴に行くわ。「指」に向かって)あなたも行くわね。

指：3ヶ月も先だけど約束するわ。

とテントでは裁判の話が続いていました。

(文責 栗山次郎)

2018年3月12日公開

-----      -----  
参照記事

- ・原告の一人・小林和博さん作成の傍聴記

[http://npg.boo.jp/kieyuku/week\\_repo/180312kobayashi.pdf](http://npg.boo.jp/kieyuku/week_repo/180312kobayashi.pdf)

- ・川内原発行政訴訟第7回口頭弁論期日(2月28日13:30)を傍聴して

[http://npg.boo.jp/kieyuku/week\\_repo/180328kobayashi.pdf](http://npg.boo.jp/kieyuku/week_repo/180328kobayashi.pdf)